

## 日本産絶滅危惧種のための飼育繁殖個体群管理セミナー

CBSG-Japan

羽山 伸一

Seminar for Conservation Practitioners: Comparative analysis of captive breeding programs for establishing self sustainable captive population of Japanese endangered species.

CBSG-Japan

Shin-ichi Hayama

### 1. 目的

現在、日本産野生動物のうち、哺乳類で約4割、鳥類で約2割にのぼる種が環境省のレッドリスト(絶滅のおそれのある野生動植物種のリスト)に掲載され、危機的な状況にある。このような野生動物の絶滅回避は急務であり、その保護・回復は可能な限り本来の生息地域内で、はかられるべきである。しかし、すでに野生下で絶滅したトキやコウノトリなどでは、生息域外(飼育下)での保護増殖に頼らざるを得ないのが現状で、今後もこうした野生動物種は増加していくと見られる

日本の野生動物保全の現場では絶滅危惧種の野生復帰(再導入)の計画がいくつか挙がっているが、その適切な実施のためには以下の研究課題が残されている。

- (1)野生復帰に関わる技術的手法
- (2)生息地再生のための野生復帰のあり方の検討
- (3)日本産絶滅危惧種の回復に関する法制度

そこで、本活動では、「野生復帰に関わる技術的手法」検討の一環として、飼育下繁殖が進められている国内種(ツシマヤマネコ、アカガシラカラスバト、コウノトリ、トキ、ヤンバルクイナ)について、実際の現場の個体群管理担当者を対象にした世界的な専門家を招聘したセミナーを開催し、個体群分析を行うことにて、長期維持が可能な飼育下個体群の管理のあり方について検討を行う。

### 2. 活動内容

独自のワークショッププロセスとツールキットを開発し、行動計画策定に実績のあるIUCN/SSC/CBSGの専門家を招聘し、野生動物保全のための飼育下繁殖個体群管理手法やCBSGワークショッププロセスを習得するセミナーを開催する。

セミナーには、ツシマヤマネコ、コウノトリ、トキ、アカガシラカラスバト、ヤンバルクイナの飼育下繁殖の現場に関わる関係者を集め、実際の対象種の飼育下個体群分析を行なう。この試み自体、わが国の絶滅危惧種で初めてのものとなる。

このセミナーを通じて、既存の飼育下における個体群分析を行うことで、分析結果そのものが直接現場に役立つものである、同時に、今後、将来的に飼育下繁殖を始めなければならない種のためにもメリットが大きい。また、PM2000による個体群管理方法は教科書などでは紹介されているが、現場では実際に専門家から教える機会が簡単に得られるのではなく、飼育繁殖施設の実務に携わっている人材の教育は非常に効果が高いものと期待できる。